

(1)所管事業の評価

総合評価の割合	 期待を上回る 0.0%	 概ね順調 61.5%	 限定的効果 38.5%	 成果不十分 0.0%
---------	--	---	--	---

(2)所管事業のコスト(単位:千円)

	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R8見込	R4~R7 合計	事業費に占める 一般財源の比率
事業費 総額	1,785,861	1,838,096	1,582,694	1,393,814	1,393,814	6,600,465	25.0%
市の実質負担額 総額	432,407	381,239	395,610	440,041	644,537	1,649,297	

				重点P	-	総合評価	限定的効果	
No.	15010	事業名	(市) 飯岡海上連絡道三川蛇園線整備事業		事業コード	30000	担当課	建設課
事業概要	本事業は、飯岡地域の三川地区と海上地域の蛇園地区を接続する新設道路の整備を行い、交流基盤を強化するものである。整備により、東総広域農道から国道126号までが直結され、広域的な道路網の形成と地域間交流の活性化が図られる。また、現道に代わる新たな幹線道路として機能することで、地区内の通過交通量を抑制し、住環境の改善に寄与する。加えて、沿岸部の津波避難道路を補完する避難経路として、地域の防災力向上も期待される。							
経緯等	1市3町合併時に策定した新市建設計画において、一体的な発展と住民の利便性向上のために地域間を結ぶ幹線道路として事業化した。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	・測量・設計業務 ・用地取得 ・道路の拡幅、新設工事		道路整備済延長			道路整備率（整備済延長／全体計画延長）		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	道路整備済延長（m）	1,620	1,620	2,160	2,370	2,480	2,480
	活動指標イ		0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	道路整備率（整備済延長／全体計画延長）	63.8%	63.8%	85.0%	93.3%	100.0%	100.0%
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		13,021	22,037	32,045	19,802	91,600	
	その他(補助金・地方債等)		493,649	605,763	320,660	210,300	4,906	
	歳出額(総額)		506,670	627,800	352,705	230,102	96,506	
課題等	一部の用地について取得手続きが停滞している。							
令和8年方針年度	用地取得を完了し、未成区間の整備完了を目指す。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	15020	事業名	(市) 南堀之内バイパス整備事業		事業コード	30100	担当課	建設課
事業概要	国道126号から主要地方道大栄・栗源・干潟線までを結ぶ、広域的なネットワークを確立する重要な幹線道路で地域の産業振興の発展と生活基盤の活性化を図る。							
経緯等	1市3町合併時に策定した新市建設計画において、一体的な発展と住民の利便性向上のために地域間を結ぶ幹線道路として事業化した。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	・測量・設計業務 ・用地取得 ・道路の拡幅、新設工事		道路整備済延長			道路整備率（整備済延長／全体計画延長）		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	道路整備済延長（m）	244	392	392	585	-	585
	活動指標イ		0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	道路整備率（整備済延長／全体計画延長）	41.7%	67.0%	67.0%	100.0%	-	100.0%
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		95	76	197	36	-	
	その他(補助金・地方債等)		155,872	235,442	202,200	206,200	-	
	歳出額(総額)		155,967	235,518	202,397	206,236	0	
課題等	R7年度に整備を完了した。							
令和8年方針	R7年度に整備を完了した。							

				重点P	-	総合評価	限定的効果	
No.	15030	事業名	(市) 震災復興・津波避難道路整備事業		事業コード	30110	担当課	建設課
事業概要	東日本大震災の津波被災地域における避難道路の整備及び被災地域の復興のための重要路線の整備を実施する。 横根・三川線（飯岡地区と津波避難場所である飯岡中学校を結ぶ路線） L=1.3km （平成25～） 椎名内・西足洗線（椎名内地区と災害拠点病院及び防災拠点である旭中央病院を結ぶ路線） L=3.0km （平成26～）							
経緯等	災害時の避難道路の確保や被災地域と防災拠点のアクセス向上を図るため。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	道路設計、地権者への丁寧な用地交渉、工事の実施		道路整備済延長			避難時間の短縮、緊急搬送時間の短縮、心理的な安心感		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	道路整備済延長（m）横根三川線	611	611	980	980	980	1,300
	活動指標イ	道路整備済延長（m）椎名内西足洗線	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	3,000
	成果指標ア	道路整備率（整備済延長／全体計画延長）横根三川線	47.0%	47.0%	75.4%	75.4%	75.4%	100.0%
	成果指標イ	道路整備率（整備済延長／全体計画延長）椎名内西足洗線	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	100.0%
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		64,749	7,281	101	108	102	
	その他(補助金・地方債等)		85,953	75,328	141,900	9,200	10,800	
	歳出額(総額)		150,702	82,609	142,001	9,308	10,902	
課題等	用地取得の進捗が課題。 住民からは事業の早期完了が求められている。							
令和8年度の方針	横根・三川線 用地交渉を行う。 椎名内・西足洗線 銚子連絡道路との重複区間L=500mの整備に向けて、測量・詳細設計を行う。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	15040	事業名	(市) 谷丁場遊正線整備事業		事業コード	-	担当課	建設課
事業概要	銚子連絡道路 I C から国道126号及び東総広域農道を経て、主要地方道大栄栗源干潟線までを結ぶ広域的な道路ネットワークを形成し、地域産業の活性化や防災機能の確保を図る。							
経緯等	令和4年度の銚子連絡道路の事業化を受け、その整備効果を最大限に発揮するため、令和7年度にはインターチェンジと国道126号及びあさひ鎌数工業団地を直結する本路線の整備に着手した。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	・測量・設計業務 ・用地取得 ・道路の拡幅、新設工事		道路整備済延長			道路整備率（整備済延長／全体計画延長）		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	道路整備済延長（m）	0	0	0	0	0	400
	活動指標イ		0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	道路整備率（整備済み延長／全体計画延長）	0%	0%	0%	0%	0%	100.0%
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		0	0	0	0	1,700	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	0	13,150	
	歳出額(総額)		0	0	0	0	14,850	
課題等	道路の線形が土地を斜めに横切る形となる区間が多く、土地所有者との合意に時間を要することが見込まれる。							
令和8年度方針	道路の詳細設計を進めるとともに、次年度からの土地取得に向けた準備を本格化させます。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	15050	事業名	(市) 大間手線道路改良事業		事業コード	-	担当課	建設課
事業概要	主要地方道銚子旭線から東総広域農道までを結び、本市の交通ネットワークの骨格を形成する重要な路線である。							
経緯等	旭市国土強靱化地域計画に記載され、避難機能およびアクセス向上の効果が期待されることから事業化した。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	・測量・設計業務 ・用地取得 ・道路の拡幅、新設工事		道路整備済延長			道路整備率（整備済み延長／全体計画延長）		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	道路整備済延長（m）	0	0	0	346	906	1594
	活動指標イ		0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	道路整備率（整備済延長／全体計画延長）	0.0%	0.0%	0.0%	21.7%	56.8%	100.0%
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		0	0	0	28,697	22,304	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	49,400	112,800	
	歳出額(総額)		0	0	0	78,097	135,104	
課題等	財源を国からの交付金に依存しているため、交付金の配分額が減少すると事業の進捗が滞り完成時期が見通せない。							
令和8年度方針	国からの交付金を財源としているが、令和8年度の予算配分がなかったため工事に着手できない見込み。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	15060	事業名	銚子連絡道路の整備促進		事業コード	-	担当課	建設課
事業概要	山武市から銚子市に至る広域交通ネットワークの形成、圏央道への接続強化による救急医療体制の支援、物流の効率化、国道126号の渋滞緩和、および東総地域の産業振興と観光活性化を目的とする。							
経緯等	計画策定：1994年（平成6年）に地域高規格道路の計画路線に指定。 1期区間（松尾横芝～横芝光）：1997年度に着工し、2006年に開通。 2期区間（横芝光～匝瑳）：2007年に事業化され、2023年度までに順次供用を開始。 3期区間（匝瑳～旭）：現在、計画的な事業推進が進められており、東総地域全体の利便性向上の要として位置付けられている。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	国・県に対し、要望書等の提出 期成同盟会等の会議を開催し、構成市町村間の意思統一を図る。		要望書作成、関係省庁・県への要望活動、広報・啓発活動			事業に必要な予算の確保		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	国・県への要望活動	要望実施	要望実施	要望実施	要望実施	要望実施	要望実施
	活動指標イ		0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	道路整備率（整備済延長／全体計画延長）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		0	0	0	0	0	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)		0	0	0	0	0	
課題等	道路ネットワークの効果を最大化するため、未整備区間の早期着工および完成が不可欠である。 道路の開通に伴う交通利便性の向上を、地域の産業用地整備や物流拠点の誘致など、具体的経済効果へどう結びつけるか。 国・県の予算配分により事業の進捗が大きく左右されるため、事業進捗を働きかけ続ける必要がある。							
令和8年度方針	県へ職員1名を派遣し、事業の進捗に協力する。 早期完成を国県に要望する。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調		
No.	15070	事業名	市道の維持補修事業		事業コード	29200	担当課	建設課	
事業概要	道路は毎日たくさんの車や歩行者が通ることにより、時間が経つにつれて傷んでしまうことから、良好な状態に保つ必要がある。道路表面にできた穴やひび割れを埋めたり、舗装を新しくしたりすることにより傷みや劣化を修理し、道路を安全かつ快適に使える状態に戻すことを目的としている。道路の破損状態を把握するため、定期的にパトロールを実施している。緊急性の高い補修工事は、迅速に対応できるよう年間で業務委託を行っている。								
経緯等	交通量の増加とともに、道路舗装の破損を起因とする車両事故も増加したことから、車両事故防止を図るため事業を実施している。								
ロジックモデル	活動・実施内容			産出(アウトプット)		成果(アウトカム)			
	交通量が多い路線および損傷が激しい路線を重点対象とした計画的巡回。			・道路パトロール時に発見された損傷箇所数 ・道路補修実施件数（職員、委託）		車両（自転車含む）の破損事故および転倒事故件数が減少し、市民が安全かつ安心して通行できる道路環境が維持される。			
指標				R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	道路パトロール時に発見された損傷箇所数		0	0	0	0	300	300
	活動指標イ	道路補修実施件数（職員、委託）		420	420	420	450	450	450
	成果指標ア	舗装破損に起因する事故報告件数		3	1	4	4	2	2
	成果指標イ	年間要望・苦情の件数		1,407	1,639	1,424	1,251	1,300	1,300
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額			79,628	75,549	70,907	139,880	108,532	
	その他(補助金・地方債等)			271,500	255,900	189,200	83,027	167,343	
	歳出額(総額)			351,128	331,449	260,107	222,907	275,875	
課題等	交通量の増加、とくに大型車両の増加により、既存の舗装構成では道路の強度が不足している路線があり、舗装のひび割れなどが多くの箇所で発生している。 道路の破損によるタイヤのパンクや自転車の転倒事故は依然として発生していることから、パトロールの強化や早急な補修などの対応が求められている。								
令和8年度方針	今後も道路環境を健全な状態に保ち、安全で快適な道路を提供するため、維持補修を継続して実施していく。成果指標のさらなる減少を実現するため、日常パトロールを行い苦情や事故につながる前の道路メンテナンスに努めていく。								

				重点P	-	総合評価	限定的効果	
No.	15080	事業名	急傾斜地崩壊対策事業		事業コード	29400	担当課	建設課
事業概要	急傾斜地やこれらに隣接する土地のうち、斜面の崩壊により住民の生命に危害のおそれのある区域の保全を図る。本事業の実施主体は県である。							
経緯等	急傾斜地崩壊危険区域に指定されていない区域の斜面の崩壊による被害を防ぐため。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	土砂災害リスクが低下することで、転出を食い止める		急傾斜地崩壊対策工事の整備延長			土砂災害リスクの低減 住民の安心感向上 安全な居住環境による「定住人口の維持」と「持続可能なまちづくり」への寄与		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	急傾斜地崩壊対策工事の整備済延長（m）	0	0	105	112	127	183
	活動指標イ		0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	急傾斜地崩壊対策工事整備率（整備済延長／全体計画延長）	0.0%	0.0%	57.3%	61.1%	69.3%	100.0%
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		18	0	81	41	78	
	その他(補助金・地方債等)		1,500	0	9,200	6,600	18,000	
	歳出額(総額)		1,518	0	9,281	6,641	18,078	
課題等	近年、地震や局地的な集中豪雨による土砂災害が全国的に激甚化しており、本市においても台風等に伴う土砂崩れが発生するなど、市民の安全・安心を脅かす事態が生じています。こうした状況下で地域住民からの対策要望が強まる一方で、本事業は私有地の保全を目的とすることから、公費投入の妥当性についてより一層の透明性と説明責任が求められています。限られた財源の中、公益性の観点から事業の必要性を明確化し、市民の理解を得ながら着実に推進していく必要があります。							
令和8年度方針	千葉県施行による急傾斜地崩壊対策工事（見広2地区）をL=15.0m実施する。 市は県施行による事業費の2割を負担する。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	15090	事業名	道路新設改良事業		事業コード	29600	担当課	建設課
事業概要	旧来の道路構造は、幅員が狭小であることに加え、排水機能が不十分な箇所があり、豪雨時の道路冠水が地域生活や緊急時の通行に多大な支障をきたしています。本事業は、道路拡幅による交通円滑化と、側溝整備による浸水対策を一体的に推進することで、生活インフラの安全性と防災機能の抜本的な強化を図るものです。							
経緯等	狭い道路による交通の危険や、大雨時の浸水被害が課題となっています。本事業により、道路を拡幅し、あわせて側溝を整備することで、日常の安全と災害への備えを強化し、快適な住環境を推進します。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	・測量・設計業務 ・用地取得 ・道路の拡幅、新設工事		・整備を行った路線数（路線） ・用地取得件数（件）			・道路改良済延長 ・道路改良率		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	整備路線数（路線）	32	34	41	26	11	1
	活動指標イ		0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	道路改良済延長（全体）	764885	768415	777836	779039	780074.377	漸増
	成果指標イ	道路改良率	68.7%	68.8%	69.5%	69.6%	69.7%	漸増
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		160,036	215,397	247,125	227,433	196,074	
	その他(補助金・地方債等)		102,393	23,836	14,785	74,700	163,267	
	歳出額(総額)		262,429	239,233	261,910	302,133	359,341	
課題等	本格的な人口減少社会を迎え、既存ストックの維持管理費だけでも市の財政を圧迫しています。今後は、さらなる人口減少社会となることが確実であり財源も減少するなかでは、既存ストックを適切に維持管理することを優先し長寿命化を図るとともに、新たに整備する道路は重要度が高く真に必要なものに絞り込むことが必要です。							
令和8年針年度	道路改良工事の実施 道路改良工事 4路線 道路排水整備工事の実施 道路排水整備工事 6路線 道路舗装工事の実施 道路舗装工事 1路線							

				重点P	-	総合評価	概ね順調		
No.	15100	事業名	橋梁長寿命化修繕事業		事業コード	30220	担当課	建設課	
事業概要	旭市橋梁長寿命化修繕計画に基づいた、予防保全型の維持管理を行う。 旭市管理橋梁 320橋								
経緯等	従来の対処療法的な修繕から予防保全的な修繕への転換を図り、長寿命化によるコスト削減を図る。								
ロジックモデル	活動・実施内容			産出(アウトプット)		成果(アウトカム)			
	橋梁点検要領に基づいた定期点検の実施と健全性の判定。			・定期点検実施橋梁数 ・補修実施橋梁数		橋梁の健全性が維持され、大規模な事後修繕が不要となる。			
指標				R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	補修橋梁数		4	3	2	1	6	6
	活動指標イ	点検橋梁数		2	0	75	139	105	75
	成果指標ア	補修済橋梁数		46	49	51	52	58	58
	成果指標イ			0	0	0	0	0	0
費用(千円)	一般財源・基金等市の実質負担額			18,577	12,612	32,015	7,497	34,779	
	その他(補助金・地方債等)			19,437	7,260	3,986	10,103	84,736	
	歳出額(総額)			38,014	19,872	36,001	17,600	119,515	
課題等	進展する橋梁の老朽化に対し、効率的かつ効果的な維持管理を行う必要がある。								
令和8年針年度	修繕計画の更新 橋梁維持補修工事の発注 橋梁設計業務委託								

				重点P	-	総合評価	限定的効果	
No.	19090	事業名	冠水対策排水整備事業		事業コード	29700	担当課	建設課
事業概要	近年の集中豪雨や台風等により冠水地域が多発し、浸水被害は深刻な状況にあり、市民から排水機能の改善要望が多く寄せられている。冠水の解消や緩和を図るため効果的で経済的な排水施設の整備を早期に実施しなければならない。現在はハ、後草地区において排水施設の整備を計画的に進めている。							
経緯等	合併により、旧市町区域を横断的に計画策定できる状況になったことから、より効率的な整備を行うため、市域全域を対象とした排水計画を策定する。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	排水施設の整備を通じて、市民の安心・安全な生活を確保し、ひいては定住促進という長期的な市政目標につなげる重要な施策です。		排水施設（排水路、管渠、側溝等）の設計・工事			計画的な冠水解消・浸水面積の縮小、浸水被害の減少による市民負担の軽減		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	排水計画策定	2	0	0	0	0	対象区域拡大
	活動指標イ	排水路整備延長（m）イ・ハ・後草	69	117	195	226	532	2,601
	成果指標ア	排水路整備率（整備済み延長／全体計画延長）	0	0	0	0	0	100%
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		6,890	9,319	7,258	14,645	187,725	
	その他(補助金・地方債等)		129,200	171,600	137,000	268,000	347,400	
	歳出額(総額)		136,090	180,919	144,258	282,645	535,125	
課題等	排水施設の整備には多額の費用が必要とされるが、財源の確保が課題である。合併特例債等の財源をR8施工分まで確保できたが、R9以降の財源確保は未定であり、工事進捗の遅れが懸念される。							
令和8年針年度	イ地区は、令和7年度に排水路の整備を完了した。 ハ地区において、排水路200mの整備をする。 後草地区において、排水路176mの整備をする。							

				重点P	4	総合評価	限定的効果		
No.	27040	事業名	震災復興・津波避難道路整備事業		事業コード	30110	担当課	建設課	
事業概要	東日本大震災の津波被災地域における避難道路の整備及び被災地域の復興のための重要路線の整備を実施する。 横根・三川線（飯岡地区と津波避難場所である飯岡中学校を結ぶ路線） L=1.3km （平成25～） 椎名内・西足洗線（椎名内地区と災害拠点病院及び防災拠点である旭中央病院を結ぶ路線） L=3.0km （平成26～）								
経緯等	災害時の避難道路の確保や被災地域と防災拠点のアクセス向上を図るため。								
ロジックモデル	活動・実施内容			産出(アウトプット)		成果(アウトカム)			
	道路設計、地権者への丁寧な用地交渉、工事の実施			道路の整備済延長		避難時間の短縮、緊急搬送時間の短縮、心理的な安心感			
指標				R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	道路整備率（整備済み延長／全体計画延長）横根三川線		47.0%	47.0%	75.4%	75.4%	75.4%	100.0%
	活動指標イ	道路整備率（整備済み延長／全体計画延長）椎名内西足洗線		83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	100.0%
	成果指標ア	避難施設への到達時間（分）横根三川線		18	18	18	18	18	16
	成果指標イ	避難施設への到達時間（分）椎名内西足洗線		38	38	38	38	38	38
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額			64,749	7,281	101	108	102	
	その他(補助金・地方債等)			85,953	75,328	141,900	9,200	10,800	
	歳出額(総額)			150,702	82,609	142,001	9,308	10,902	
課題等	用地取得の進捗が課題。 住民からは事業の早期完了が求められている。								
令和8年針年度	横根・三川線 用地交渉を行う。 椎名内・西足洗線 銚子連絡道路との重複区間L=500mの整備に向けて、測量・詳細設計を行う。								

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	28030	事業名	交通安全施設維持補修事業		事業コード	29300	担当課	建設課
事業概要	交通事故を未然に防ぎ、誰もが安心して通行できる道路環境を維持するため、交通安全施設の補修および更新を行っています。防護柵や標識、カーブミラーといった安全設備の老朽化対策に加え、通学路の点検結果に基づいた改善や、グリーンベルト設置による注意喚起を推進しています。将来にわたり「安全・安心で暮らしやすいまち」を実現するため、地域の実情に応じた計画的な整備を継続して実施します。							
経緯等	地域の交通安全は、社会情勢の変化や道路施設の老朽化に伴い、常に適切な管理・改善が求められています。本事業は、児童・高齢者をはじめとする歩行者の安全確保を最優先とし、通学路合同点検の結果や地域の交通状況、施設の耐用年数等を踏まえ、計画的かつ迅速な施設整備・更新を行うことで、安心・安全な交通環境の維持・向上を図ります。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	交通事故を防ぎ、誰もが安心して通行できるよう、カーブミラーや防護柵などの安全施設を適切に維持・更新する。		交通安全施設の修繕・更新完了件数			交通事故発生件数の減少（前年比）		
指標			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8(見込)	目標値
	活動指標ア	防護柵の新設・更新延長（m）	550	151	225	354	250	現状維持
	活動指標イ	カーブミラーの新設・更新箇所数（箇所）	24	18	30	31	17	現状維持
	成果指標ア	交通事故発生件数（目標：前年比）	1,705	1,764	1,819	1,805	1,764	減少
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		24,644	31,687	5,780	1,794	1,541	
	その他(補助金・地方債等)		7,997	6,400	26,253	27,043	27,697	
	歳出額(総額)		32,641	38,087	32,033	28,837	29,238	
課題等	安全施設の更新は、限られた財源のもと、優先順位が高い箇所から計画的に実施している。 なお、横断歩道の修繕については県警察本部が所管しているため、当市から速やかな対応を要望しているが、補修完了までには相応の期間を要する状況である。							
令和8年度	交通事故防止のため、新規の安全施設や老朽化した既存施設を効率的・効果的に整備していく必要がある。 特に通学路の安全施設については、学校等の関係機関と連携を図り、グリーンベルトの設置などにより交通事故の発生防止に努める。 横断歩道など、他機関が所管するものの修繕については、早急な対応を要望していく。							